

# 子ども食堂にとって地域とのつながりは どのような意味を持つのか

豊田市東山ぐうぐう食堂の活動を手掛かりに

早津 美帆

## 論文要旨

本稿は、筆者が大学生活で度々参加してきた東山ぐうぐう食堂を取り上げ、地域とのつながりが子ども食堂の活動にどのように作用するのかを探求する。2020年に行なった中京大学成ゼミナールの社会調査実習において、コロナ禍の愛知県の子ども食堂の活動状況の輪郭が掴めた。愛知県の子ども食堂では2020年11月時点でアンケート回答数の48%が、人数制限などの変化を伴いながら、子ども食堂を再開している。その中でもとりわけ豊田市の子ども食堂の活動再開率が際立って高いことがわかった。これまでの子ども食堂への参加経験から、コロナ禍の厳しい環境の中であるにもかかわらず、活動再開に漕ぎつけるには、子ども食堂の地域とのつながりが鍵を握ると考えた。子ども食堂の地域とのつながりとは、子ども食堂への参加者、ボランティアスタッフ、自治区等との関わりを指す。子ども食堂にとって地域とのつながりの意味を明らかにし、今後の子ども食堂の活動に一助することが、本稿の目的である。

## 目次

- 第一章 子ども食堂にとって地域の意味
- 第二章 豊田市と自治区の関係
- 第三章 地域の歴史
  - 第一節 豊田市と高橋地区の歴史について
  - 第二節 東山自治区の歴史について
- 第四章 子ども食堂の定義
  - 第一節 むすびえによる子ども食堂の定義
  - 第二節 自身の経験から考える子ども食堂の定義
- 第五章 東山ぐうぐう食堂の活動の歴史
- 第六章 地域とのつながりは大事である

## 第一章 子ども食堂にとって地域の意味

本稿は大学生時代に参加した豊田市で開催されている子ども食堂「東山ぐうぐう食堂」を事例に、地域とのつながりが子ども食堂にとっていかに重要であることを明らかにすることを目的とする。

筆者が大学生時代に参加してきた東山ぐうぐう食堂は開催当初から参加人数が多く、またコロナ禍でも開催できており、参加者も多いという特徴がある。筆者はその特徴を持つ理由が地域にあると考えた。

2021年6月9日に行なわれた福井香代さんインタビューにより、コロナ禍でも多少活動形態の変化や対象者の限定と変更はあったものの、活動自体は続けることができていた事が明らかとなった。理由は、感染対策について自治区長の越本政雄さんに詳しく説明する場を設けるなど、自治区長が活動出来るよう前向きに話を聞き検討してくれたからである。この他にも福井さんのインタビューで自治区長の越本さんの名前は多く挙げられた。このことから、今回は自治区や住民といった地域とのつながりの調査を行なうこととする。

調査方法としては、これまで参加してきた東山ぐうぐう食堂の活動記録や資料をもとに、東山自治区長の越本政雄さんや東山ぐうぐう食堂代表である福井香代さん、インタビューを行なう方法をとる。

## 第二章 豊田市と自治区の関係

豊田市の自治区は、戦後地方制度の改革（町内会・部落会の廃止）のなか、挙母市時代の「駐在員」制度が昭和35年に「行政区」へと変更、そして昭和49年に行政区が「自治区」と改称されたことで誕生した。また、昭和35年には市名も豊田市に変更されている。豊田市の自治区は「豊田市区町会」が束ねる仕組みとなっており、自治区の規模は約4000世帯からわずか8世帯と様々である。そして自治区の位置づけとしては行政組織ではなく「自主的任意団体」であるが、行政との関係は「相互協力」の関係にあるとされている。

豊田市は、人々が生涯を通じて最も強い帰属意識を持つ存在を自治区だと考えており、その自治区（まち）を基礎的なコミュニティ（まち）と位置づけている。そして自治区の意味を、区民の総力体制をとることにより地域課題をまずは自治区が対処し、心理的に快適な社会環境を創造していき、そして「ふるさとわがまちづくり・人づくり・幸せづくり」を築いていく事だと考えている。

また、豊田市は自治単位とは別に基礎的な自治社会として「ふれあい豊かな地域社会」のことを「コミュニティ」とよんでおり、コミュニティ活動の基本単位は自治区であるため、各自治区は「自治区コミュニティ」と呼ぶことができる。ここでいうコミュニティ活動とは、地域の人達が日常生活の中で世代を超えて交流を深め、自分の生活を豊かで充実した、うるおいのあるものにしていく活動のことを指している。そしてコミュニティ活動における行政の役割は、コミュニティ活動が活発に行なわれるための条件づくりである。環境作りを進め、地域の人たちによる自主性や自発的なコミュニティ活動の「きっかけ」をつくる事を行なっている。

このように豊田市は自治区やコミュニティといった住民が自治に変わることを重要としている。そして住民自治の基本は地域の人々が平等に参加し、責任を持って課題解決を行なう事であり、役割分担の徹底と努力の継続を確保するための記録作りが大切だと考えている。そのために必要な事が「協調と精神の連帯意識」であり、その意識を育むのが「豊かな文化づくり」である。例としては、お祭り・盆踊り等の伝統行事の育成、環境美化、自主防災、地域福井活動等を中心とする自治区の諸活動である。これらの活動が住民の知恵を活かしたものであればあるほど、帰属意識・ふるさと意識が育ち、地域社会の一員として責任感と参加の意欲が湧いてくると考えられており、住民自治で重要となるのは一律統制ではなく、理解と尊重による思いやりの心とされている。

### 第三章 地域の歴史

#### 第一節 豊田市と高橋地区の歴史

豊田市は、昭和34年に挙母市から名を改めた所から始まり、その後、昭和35年～昭和45年のわずか10年間に人口104,529人から197,193人とほぼ倍増している。昭和34年以前は男性人口よりも女性人口が多く、いわゆる農村型都市であったが、昭和45年には、人口総数197,193人のうち男女比6:4、年齢人口では20代前後の男性が突出して高い比率を示す工業都市へと変貌した。現在の豊田市の人口は令和3年10月時点で420,022人であり、男女比は約5:5となっている。

このように新たな都市へと変化した豊田市は、旧町村地域の松平地区・藤岡地区・下山地区・足助地区・小原地区・稲武地区・旭地区と、豊田地域の保見地区・猿投地区・石野地区・松平地区・高橋地区・挙母地区・高岡地区・上郷地区で形成されている。

#### 旧町村地域

|      | 人口〈令和3年〉 |
|------|----------|
| 藤岡地区 | 19,332   |
| 下山地区 | 4,261    |
| 足助地区 | 7,311    |
| 小原地区 | 3,398    |
| 稲武地区 | 2,165    |
| 旭地区  | 2,522    |

#### 豊田地域

|      | 人口〈令和3年〉 |
|------|----------|
| 猿投地区 | 74,108   |
| 松平地区 | 9,428    |
| 高橋地区 | 54,185   |
| 挙母地区 | 133,351  |
| 高岡地区 | 77,282   |
| 上郷地区 | 33,937   |

今回は対象の東山ぐうぐう食堂が開催されている豊田地域の高橋地区全体と東山町自治区に焦点を当て、歴史や子ども、地域のつながりについて調査を行なう。

一方、高橋地区は、曾根遺跡他、縄文時代の遺跡が多く残されており、丸山遺跡からは300点以上の石器や土偶等が出土していることから原始時代から人々の生活の場となっていたと考えられる。中世（平安～室町時代）では、平安時代に荘園が広がり、高橋荘ができたようで、高橋荘の範囲は現在の豊田・加茂の北部から中部にまたがるほど広範囲だった事が明らかとなっている。

明治時代から昭和は、従来独立して行政を行っていた16の村が合併して8の村となり、旧村は大字として従来の地域にそのまま残されることとなった。昭和39年7月に8の村がさらに合併し、高橋村となった。これは明治の第二次町村合併で国策による独立自治に耐えうる町村の規模である。そして昭和31年には高橋村が拳母市に合併し、昭和34年に高橋地区の新町名の設定が行なわれ、高橋村だった拳母市はトヨタ自動車の発展に伴い、豊田市に市名変更された。

昭和40年代には各地で団地が開発された時期であり、高橋地区でも子ども達の通学路に家がなく、物騒であることから団地を誘致しようという構想がされていた。そして昭和49年に室団地が完成したが、汚水の問題がありしばらく家を建てることができず、入居が始まったのは昭和53年からであった。この団地の開発により戸数が大幅に増加し、高橋地区の活性化につながったといえる。

次に高橋地区で開催されている主だった行事は下記である。

- ・野見神社

平成8年までは毎月何らかの祭事が執り行われている。7月に行なわれる夏祭りでは、昭和30年頃までは子ども達が笹に提灯をぶら下げてお参りを行なった。

子供相撲は昭和40年代に一時途絶えたが、昭和55年頃より復活した。お神輿やお囃子は子供が参加する物は平成3年よりどちらも始まった。

- ・行徳寺

毎年12月25日より3日間、報恩講が勤まった。一週間前から、お寺の掃除・仏具のお磨き・餅つきと様々な面で村民が手伝うため村民の楽しみでもあった。しかし、昭和16年末、戦争が始まり中止となってしまった。終戦後再び行なわれたが、時代の流れによって変化してしまった。

- ・盆踊り

青年会があった時代は自治区内の盆踊りも公民館前の広場で盛大に行なわれたが、青年会の消滅と共に行なわれなくなった。しかし、昭和52年頃自治区内に子ども達の思い出として残るような行事がないのは残念ということで消防団が中心となって盆踊りが再び行なわれるようになった。盆踊り大会には各地域より夜店が出店され、会場を盛り上げた。

- ・婦人会

昭和7年に「大日本愛国婦人会」が高橋村で設立された。昭和8年には「防火婦人会」が設備されている。戦後の婦人会活動は、特に女性の地位向上にともなう学習会やボランティア活動であった。講演会や料理講習会を開き、台所改善のモデル家庭を設定し、見学・検討会を行ってきた。様々な問題が起こり、昭和44年に解散となった。

- ・長寿会

昭和40年に組織され、焼く30年の歴史がある。老人クラブ長寿会は生きがいを高め、明るい長寿社会を作る事を目的とし、各種の自主活動を活発に行なっている。憩いの家の集まり、毎週3回のゲートボールの練習・花見・旅行等が実施されていた。

- ・スポーツ部会

昭和57年にスポーツ部会が「スポーツの推進」が活動保身に上げられていた豊南コミュニティの下部組織として正式に誕生した。コミュニティ主催のソフトボール大会やミニソフトバレー等に参加し、自治区の団結力を向上させた。

## 第二節 東山自治区の歴史について

東山町自治区の歴史や地域のつながりについては区長の越本政雄さんのインタビューと、豊田市創立 30 周年・50 周年記念誌等をもとに整理した。

東山自治区の区長、越本政雄さんへのインタビューは 2021 年 11 月 19 日午前 10 時から、東山区民会館で行われた。まず、インタビューを通じて、豊田市の中の東山地区の位置づけを明らかにした。東山町自治区は豊田市の中の高橋地区に位置している。高橋地区はさらに高橋地区・美里地区・益富地区の 3 つに分かれ、その中の美里地区に東山町自治区は位置しているのである。そして東山町自治区は美里地区の中で最も人口の多い自治区である。

次に、子ども食堂が始まる前から行なわれていた子どもの居場所づくりの活動が、東山町自治区で始まったきっかけについて聞いた所、5 年ほど前に小黒泰之さん（子どもの居場所いま・ここ代表者）が子どもの居場所となる活動をやりたいという相談を区長の越本さんにした事がきっかけであった。小黒さんは 5、6 年前、東山小学校の PTA の会長をし、その際に、東山地区には多くの子どもがいることに気づいた。東山町の子ども達が放課後に集まり、いろんな遊びができる場所を作りたいという思いから、越本さんのもとへ相談に来た。前述したように美里地区の中で東山町自治区は最も人口が多く、東山小学校の三分の二は東山町自治区の子ども達が占めている。

また、東山町自治区には一人っ子の子どもや、親が一人の子どもが多いため、学校から帰っても親が仕事に行っていないという世帯が多い。そのため子ども達は夜まで一人で過ごしているという現状があったため、越本さんは、小黒さんから相談された際に、子ども達が過ごせるような場所を作るという活動を大歓迎だと想い、活動の許可をだしたという。豊田市でも行政として子どもの居場所に関する取組みがされているため、補助をもらいながら居場所づくりの活動を行っており、その活動から子ども食堂の活動に繋がった。子ども食堂を始めてから、いろんな所から食材等の寄付を頂く事が増えている。子どもの居場所づくりを行ないながら、子どもと一緒に食事を作ることも子ども食堂で行っており、自治区として居場所づくりや子ども食堂ができた事で子ども達の生活に良い変化が生まれており大変助かっていると話されていた。

また、東山町自治区では子どもだけでなく、高齢化が進んでいるという問題も抱えている。そのため、子ども食堂の活動を通して頂いた食材等の寄付は、子どもだけでなく、地域の方にもおすそわけを行なっている（企業の移行で配布の対象を子どもに絞ってるものは除く）。子ども食堂を始めたばかりの頃は、寄付の数と参加者の数に差があり、食材が余ることもあったが、最近は足りずに全員に配布できない日もあるため、以前に比べより多くの方が参加してくれている事を実感するという。コロナ禍になってからは、新型コロナウイルスの影響により仕事ができない人も見えるため、おすそわけ会等で食材の寄付をもらう事で生活できているという声も聞き、活動の重要性をより感じるという。

子ども食堂の活動については月に 1 度福井さんが東山区民会館に告知のチラシを持って、今月はいつ子ども食堂を開催するかの報告を行なっている。その際にチラシを印刷し、そのチラシを回覧で地域に回している。参加者の増加にはこの回覧も大きな効果があると考えている。

次に、東山町自治区の歴史について越本さんのインタビューと 50 周年記念誌、30 周年記念誌をもとにたどっていく。

まず、東山町は昭和 37 年に 3 月に豊田市東部の丘陵地に自動車関連産業の好況に支えられ、豊田市初の勤労者向け住宅団地が建設され、東山町と名付けられた。「東山」という名前の

由来は、もともとは山があった場所である事と、現在は合併等で変化したが、当時はその山が最も東に位置する山であったからだという。

昭和38年には上野町自治区より発展分離して、東山町自治区が誕生した。当時は、道路は赤土で、雨が降ると住宅敷地も主幹道路も泥の海となり、通勤者は片手に革靴を持ち、素足や長靴でバス停まで移動していたという。当時の世帯数は215世帯であった。開町当時は泥ねいの町、陸の孤島と呼ばれるほどの場所で会ったが、初代区長と移り住んだ人々は「明るい住みよいまちづくり」を旗印に、盆踊りや運動会といった行事を開催する等、地域住民の繋がり場を作ってきた。当時の様々な活動により、「明るい住みよいまちづくり」が行なわれ、現在の世帯数は2100世帯であり、当時の約10倍にも増加したのである。

人口増加の要因は若者の進学就職による地元離れだと考えられる。若者が東山町を離れることで地域の高齢化は進んでいる。しかし子どもが地元を離れることにより住んでいた家や土地を売り、東山町内や、周辺の地域のアパートに住む方が多くいる。そして、売られた家や土地を買って新たに家族が東山町自治区に住むという流れがあるようだ。それにより人口は増加傾向にあるという。また、外国人が増えている事も要因の1つだといえる。外国人は入れ変わりが激しいため正確な世帯数は把握できないが、東山ぐうぐう食堂にも外国人の参加が見られる。自治会の役員にも外国人がおり、長く東山町に住む方も多いようだ。

次に、当時から現在の間に行なわれた地域の活動や行事についてまとめていく。

当時の三大行事は、運動会・盆踊り大会・秋の東山まつりであった。盆踊り大会は昭和39年に第一回が開催された。初代区長は、全国寄せ集めの東山町になにかほのほのとしたやすらぎと、住民の和を広げ、この町を愛する人づくりを行ないたいと考え、日本人の伝統である盆踊りを地域で行なう事にした。次に秋の東山まつりは昭和43年に初めて開催された。秋祭りのメインは獅子舞であった。古城郡上宝村今見の獅子舞を新興団地の住民が習い引き継ぎ、獅子舞が踊られた。当時は獅子舞や衣装は今見より借りてきての開催であった。当時は道路網も整備されておらず、7時間かけ一泊して借りに行っており、返しに行く際も今見の祭礼の日程もあるため開催には時間と労力がかかるため大変であった。第一回家族総合大運動会は昭和45年に開催された。東山町を8ブロックほどにわけ、ブロック対抗で行なわれた。町民総出での応援合戦や、役員紅白リレー、短縮マラソン等の競技を通して、東山町自治区の人の和・絆を深める事ができた。現在開催されていない理由は、地域の高齢化により、競技中にこけてケガやねんざ等が増え危険だと判断されたためである。また運動会の他にも当時はソフトボール大会やバレーボール大会等も開催されていた。

現在の東山町自治区の三大行事は夏祭り・秋祭り・越年祭である。運動会の開催はなくなったが、今でも夏祭り・秋祭りは開催されている。夏祭りは8月に開催され、約1500人の住民が参加するそうだ。令和2年は新型コロナウイルスの影響により中止したが、令和3年は感染対策を徹底して開催することができた。対策としては、会場の入り口で氏名等を記入してもらい、誰が参加したか把握できるようにし、体温等の健康チェックを行なった。そしてチェックが終わった人にはリストバンドを渡し、誰が見ても健康であることがわかるように工夫を行なった。当時は盆踊りが祭りのメインであったが、現在は子ども達による太鼓も夏祭りの目玉となっている。対象は小学校4年生から中学3年生までであり、練習期間は約3週間である。経験のある中学生や高校生が中心となり、小学生に指導するというように、子ども達の間で教え合う環境で練習を行なっている。また太鼓以外にも、出店やおもちゃすくいなどもあり、令和3年は子ども食堂である東山ぐうぐう食堂もブースを持ち、食品等の無

料配布を行なった。次に秋祭りは10月に開催される行事である。令和3年は新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言のため中止となったが、令和4年は開催する方針である。秋祭りでは当時の秋の東山まつりと同様に子ども達による獅子舞がメインとなっている。獅子舞を踊る子どもの対象は小学3年生から中学生だが、小学生による獅子舞としては、参加人数の規模から全国的に例を見ない最大のものである。舞は「おぼこ」で親獅子8頭16人、子獅子8人で演技5分の神前舞と言われている勇壮な踊りである。毎年区内の子ども会に呼びかけ参加者を募集している。獅子舞を踊る子ども達は女子の方が男子より多いのが東山町自治区の獅子舞の特徴といえる。また、獅子舞の他にトラックをステージとして、ステージから5000個の餅をまくという餅まきも行なわれている。この秋祭りにも夏祭り同様多くの住民が参加しているようだ。東山町自治区では夏祭り、秋祭りに参加し、太鼓や獅子舞をしてくれた子ども達を連れて年に1度ナガシマスパーランドに行くという恒例行事もある。大型バスに乗ってみんなで思い出を作りに行く。こうした楽しみもあることでより多くの子どもが祭りに参加してくれているようだ。

当時はなかった三大行事の1つの越年祭は、年末に開催され、火をたき、みんなで年を越すという行事である。例年、越年祭は深夜までかけて実施するが、令和2年は新型コロナウイルスにより中止し、神事のみ行なった。

これらの三大行事以外にも東山町自治区では様々な行事がある。その1つにイルミネーション鑑賞会である。12月上旬にイルミネーションを公園に設置し、2週間ほど夜にライトアップを行なう。最終日にイルミネーション鑑賞会としてライトアップされたイルミネーションを鑑賞する。以前はイルミネーション鑑賞会ではなくクリスマス会が開催されており、イルミネーションは会場に装飾されていた。クリスマス会ではお汁粉、豚汁などを自治会が振る舞い、バンドによるクリスマスソングの演奏がされていた。しかし宗教等の関係で参加できない人がいたため、現在はイルミネーション鑑賞会に変更された。

他には花の植え替えもある。子どもから大人まで町民が集まり、花の植え替えを行なう。多いときで参加人数は150人ほど。花壇は東山町の中心地である渋谷町2丁目交差点横に平成16年に設けられた。花の植え替えは年3回行なわれる。植え替えに参加してくれた子どもにはパンやジュースのプレゼントを行なっている。

また自治区の畑もあり、畑では東山ぐうぐう食堂に参加する子ども達と一四に苗の植え付けから収穫までを行なっている。令和3年には自治区の畑で収穫したじゃがいもとたまねぎを使い、東山ぐうぐう食堂でカレーづくりが行なわれた。収穫から調理まで全ての過程に子ども達に関わってもらった事で、食材のありがたみや調理の大変さを学ぶ貴重な体験をしてもらう事ができた。

平成13年4月には「東山ふれあい健康デイ」が始まった。健康デイとは東山町自治区で高齢化が進むことを鑑みて、「地球で生き生きと暮らしてほしい」との想いのもと、カラオケ、囲碁、手芸などを一緒に行なう取組みであり、月に2日設けられている。また、保健師さんに来て頂き、血圧の測定など健康チェックも取り入れた活動も行なっている。この「東山ふれあい健康デイ」の取組みの中で、小学校の子ども達がおじいちゃん・おばあちゃん達と昔懐かしい話、お手玉、あやとり、一緒に「ものづくり」、おはじき等を一緒に楽しむという事も行なっている。核家族が多い現代であるため、子ども達にとっては、学校では学べない良い体験学習となっている。また子ども達はお礼にと子ども達自身で考えた寸劇を披露するなど多世代交流の場となっている。

次に子ども食堂である東山ぐうぐう食堂の活動についてである。区長の越本さんは東山ぐうぐう食堂や子どもの居場所づくりの活動が東山町自治区で行なわれたことで、子ども達の活性化を感じたという。それは開催場所に行けばいろんな遊びができ、多くの子ども達がいるため誰かと一緒に過ごせるという印象が子ども達の中にできたからだろう。そうした子ども達の元気に楽しそうに遊ぶ姿を東山町自治区は大事にしていると感じる。

令和2年2月、3月は新型コロナウイルスの影響により多くの愛知県内の子ども食堂が活動を休止したことが、令和2年の社会調査実習より明らかとなっている〈図1より〉。以下、中京大学成ゼミナールの社会調査実習をもと、令和2年の子ども食堂の状況についてまとめる。

愛知県独自の緊急事態宣言がだされた8月にも活動を休止する子ども食堂が増えていた。その中で子ども食堂の活動を再開させた所もあり、理由として多かったのは、緊急事態宣言の解除など情勢が落ち着いたや、スタッフ間での活動再開の考えが一致した、感染対策を徹底したの回答が多かった。他にも少数であったが、場所の確保や市区町村などから活動の許可がおりたという回答もあった。子ども食堂の運営者だけでは解決できない理由によって活動を休止していた子ども食堂も少なくないことが調査より明らかとなった。

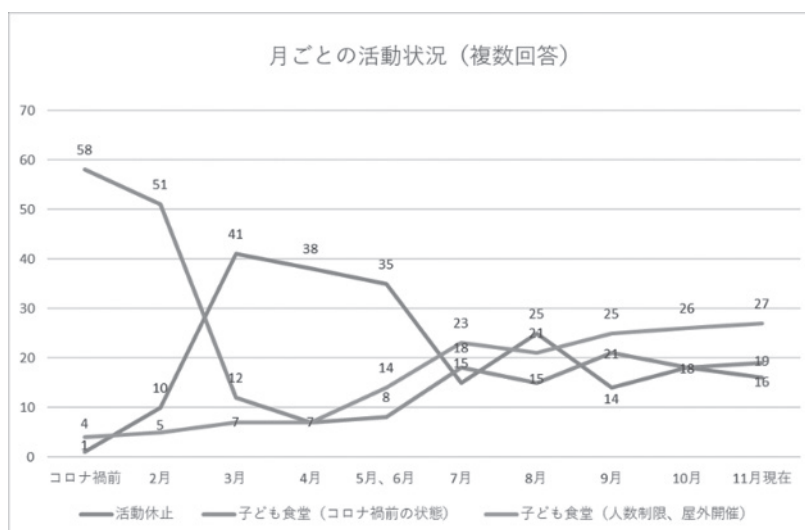


図1 コロナ禍前から令和2年11月時点での子ども食堂の活動状況の変化

子ども食堂の再開に会場の確保が関わることから、実際に子ども食堂が開催地としている場所はどういった所が多いのかについて分析したところ、公民館を利用している子ども食堂の割合が22%と一番高かった〈図2より〉。公民館は社会的教育施設とされ、運営については社会虚位区報に基づき、市町村の社会教育行政の一部に位置づけられているため、利用については市区町村からの活動許可が必要となる。また、NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえがおこなった「子ども食堂の現状&困りごとアンケート結果」のうち、子ども食堂の困りごとで最も多かった回答が「会場が使用できない」であった。

以上の社会調査実習の分析と東山ぐうぐう食堂を照らし合わせてみると、東山ぐうぐう食堂の開催場所は東山市営住宅中央集会場であり公民館と同じ分類といえる。しかし、東山ぐうぐう食堂が活動を休止させたのは令和2年3月のみであり、令和2年4月からはおすそわけ会としてすぐに活動を再開できていた。コロナ禍でも活動ができていた理由として、福井さんは令和3年6月9日に行なわれたインタビューで自治区の区長さんの協力があるからだ



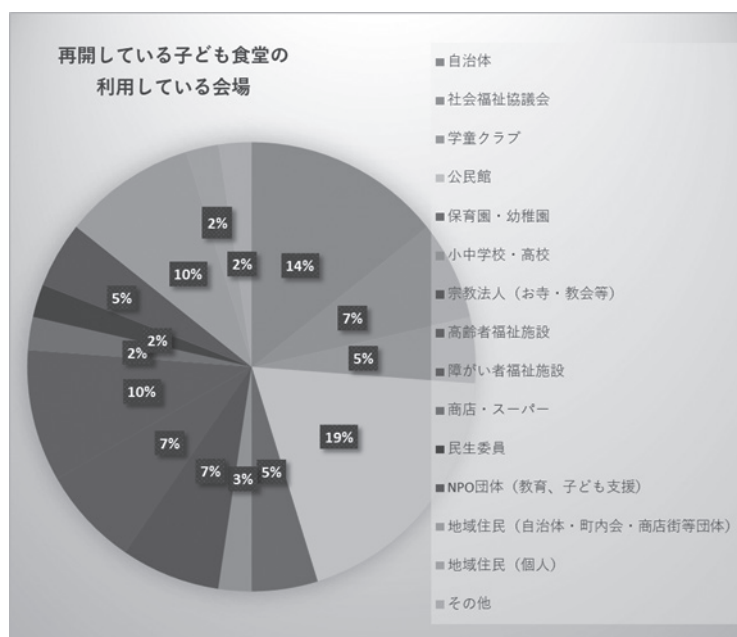


図2 食事提供を再開している子ども食堂が会場として利用している場所 (N=42)

・Q4の食事提供の子ども食堂を再開しているかという間に「はい」と回答いただいた42箇所の子どもの食堂の開催場所を示している。

話されていた。この点について区長の越本さんにコロナ禍での子ども食堂の活動許可を出し、支えている理由を聞いたところ、子ども食堂等の活動を子ども達は待っていると感じたからだという。中止にはしてはいけないという思いがあり、室内ではなく外で行なうという条件をだし、子ども食堂ではなくフードパントリーと活動形態の変更を行なう事で、活動継続の許可をだした。つまり全ての活動を中止にするということは一度も行なわなかったのだ。令和2年3月に新型コロナウイルスが問題となって活動を急遽中止としたのは豊田市からの中止要請があったからである。

コロナ禍で開催するために、外で行なう事だけでなく、スタッフの人数縮小や、消毒の徹底、用紙に氏名、住所、電話番号等を記入してもらい感染者が出た場合把握できる取組み等の対策を東山ぐうぐう食堂では行なっている。コロナ禍でも様々な企業や団体が子ども食堂の活動を支援として食材等の寄付を変わずに届けてくれていた。そうした企業等の思いもくみ取り、どんどん届く食材は地域の人に分けてあげたいという思いもあったそうだ。このように、子ども達や地域住民の生活について考える越本さんと東山ぐうぐう食堂スタッフの思いが一致し、その時の情勢に合った活動を行なう事が出来ている。

また、地域住民も活動を頼りにしている方も多いようで、コロナ禍で活動する事に対して周辺住民からの反対する意見が出ることがなかった。他の子ども食堂ではフードパントリーに対してばらまきや密になると言う声が挙がるが、東山ぐうぐう食堂ではそういった声は一切なかったようだ。

これは町民も活動を頼りにしており、協力的であるからだと考えられる。フードパントリーでは整理券を配っているのだが、時間通りに来てくれる人が多く、待つ場合も周りの人と距離を取るなど活動に協力してくれている。区長の越本さんは参加者みんながルールを守る事で、コロナ禍でも活動はできると言うことが実証できたと話されていた。

自治会や町民の協力のなか、活動を行なう東山ぐうぐう食堂のおすそわけ会等には現在100人ほどが参加しているが、区長の越本さんは今後もより多くの方に参加してもらいたい

と考えている。町民が協力し、様々な活動をすることでさらに自治区を盛り上げていきたいという思いとともに、今後さらに高齢化や少子化が進む中で、参加者を増やしつなかりを強めていきたいという思いがある。そのために自治会も子どもの居場所づくりや子ども食堂の活動等に協力してお互いに助け合う事を意識して活動を行なっている。今後はひきこもりや不登校の支援も考えており、様々な活動を通して一人でも多くの人自立できるように取組みを進めていく。少しのことで状況は変化するということを意識して今後も活動を支援していく考えである。

以下、〈東山地区の歴史〉「豊田市東山町自治区 50 周年記念誌 ふるさと創り 50 年のあゆみ」から、その概要をまとめておきたい。

|        |  |
|--------|--|
| 1962 年 | 東山町が誕生   |
| 1963 年 | 東山自治区が誕生                                       |
| 1964 年 | 第一回盆踊り大会開催<br>名鉄バス東山住宅線開通                      |
| 1967 年 | 豊田市市議会議員選挙<br>保育所完成（現 東山こども園）                  |
| 1968 年 | 町旗・東山音頭決定<br>東山神社建立<br>第一回東山まつり開催              |
| 1969 年 | ふれあい広場完成<br>第一回家族総合大運動会                        |
| 1971 年 | 東山小学校開校<br>東丘幼稚園開園                             |
| 1973 年 | 豊田東山郵便局開局<br>高橋公民館開館                           |
| 1977 年 | 優良自治区として県より感謝状を受ける<br>美里中学校開校<br>東山中央集会場完成     |
| 1978 年 | 東山自治区・京ヶ峰分譲自治区・京ヶ峰市営自治区・第一宝来・第二宝来の合同<br>の運動会開催 |
| 1981 年 | 広川台小学校開校                                       |
| 1983 年 | 益富中学校開校<br>20 年周年式典                            |
| 1985 年 | 高橋コミュニティセンター建設                                 |
| 1990 年 | 歩道橋「ひよどりばし」建設<br>自然観察の森完成                      |
| 1991 年 | ふれあいフェスティバル開催（運動会を変更）                          |
| 1993 年 | 東山町自治区創立 30 周年記念祭及び式典                          |
| 1998 年 | 東山音頭保存会 発足                                     |
| 2001 年 | ふれあい健康デイ開催                                     |
| 2004 年 | 町民の憩いの場所にと花壇を新たに設置                             |

|       |   |
|-------|---|
| 2005年 | 豊田市・藤岡町・小原村・足助町・下山村・旭町・稲武町が合併   |
| 2006年 | 美里地区初の青パト認可受け、さらなる防犯活動を展開   |
| 2009年 | 豊田市自然観察の森「ネイチャーセンター」のリニューアルオープン<br>加茂川をきれいにする会発足<br>第一回東山桜まつり開催<br>第一回東山マレットゴルフ大会 |
| 2010年 | 豊田市駅から東山五丁目までおいでんバス開通   |
| 2011年 | 伝統芸能獅子舞保存整備事業<br>東山郵便局前花壇整備事業<br>防犯啓発シンボル塔設置                                      |
| 2012年 | 自主防災マップを自治区内全戸に配布<br>東山町エコタウン完成   |
| 2013年 | 自治区創立50周年記念式典<br>渋谷ふれあいフェスタ<br>クリスマス会開催   |

## 第四章 子ども食堂の定義

### 第一節 むすびえによる子ども食堂の定義

むすびえのホームページより、子ども食堂とは子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂である。2021年12月には全国で6007箇所と確認されている。子ども食堂は月に1回開催のところから365日3食提供しているところ、対象を数人にしぼっているところや毎回数百人が参加するところなど多様な形で存在している。開催目的もおなかをすかせた子どもへの食事提供から、孤食の解消、地域交流の場づくりなど多様である。

愛知県内の子ども食堂は、むすびえのホームページより計192箇所だとされている。

### 第二節 筆者の経験から考える子ども食堂の定義

筆者が実際に参加し考える子ども食堂の定義とは、地域の居場所である。中には無料又は低額の食事を目的として参加する人もいると考えられるが、多いという印象は受けなかった。それよりも、誰かと一緒に食事をとれる事や、友達と一緒に遊ぶ場所がある事、そして子ども達が遊んでいることで少しの時間親は休む事ができるといった『居場所』としての役割の強さを感じた。

また、先行研究として岩垣穂大他の研究を挙げるが、その研究では子ども食堂の役割は子どもや保護者の居場所であるとされている。加えて、高齢者の参加も多い事から多世代交流の場や、子ども食堂を通して地域の多くの人のつながりができた事から近所の顔が見える関係づくりの場にもなっているとされている。また、居場所としての役割から誰でも参加できるような子ども食堂が多く、それにより子ども食堂運営者が「助けたい」と思っている子どもが利用しない事もある。しかし、逆に利用を断りたいと感じるような子どもが参加し、実はその子どもが助けを必要とする当事者であるというような mismatches の軽減を行なう事ができていると述べられている。先行研究より、やはり『居場所』としての役割は強いと考えることができる。

しかし、むすびえのホームページの定義にあるように、食の支援という役割がないわけではなく、その役割も重要だと考えている。2012年に東京都大田区で開設された「子ども食堂・気まぐれ八百屋だんだん」は、地域に十分な食事を給食以外でとれていない子がいるという事を聞いたことで、地域の人達が集まって一緒にごはんを食べる場所があればよいのという思いから開設に至った。子どもが一人でも来れるよう「子ども食堂」という名前をつけ、子ども100円、大人500円で食事の提供を開始した。初めは主催者自身が八百屋を経営していたことから八百屋の野菜を使った献立が多かったが、メディアの報道等により全国からの寄付によって食材が集まり魚や肉料理も提供可能となった。このように開設当初の目的が食の支援である子ども食堂も多くあるだろう。

## 第五章 東山ぐうぐう食堂の活動の歴史

次に参加している東山ぐうぐう食堂の活動についてである。東山ぐうぐう食堂は2019年の10月より活動を始め、上記にあるような対象を絞らず誰でも参加できる子ども食堂として開催した。よって開催当初の参加者は子どもから高齢者と多様であった。新型コロナウイルスが問題となる前は、食の支援と居場所づくり両方をメインとして活動していたが、新型コロナウイルスが問題となり始めた2020年3月は活動を休止し、2020年4月からは子ども食堂ではなくフードパントリーとして活動を再開させた。フードパントリーは、寄付の多さから月に2回開催することができるようになった。そして2020年7月からはお弁当での子ども食堂を再開し、学校が夏休みの時には子どもだけを対象としたお弁当配布も実施した。2020年11月からはお弁当ではない子ども食堂も再開し、現在も子ども食堂とフードパントリーの活動を月に2回開催している。当初は食の支援と居場所づくりどちらも目的として子ども食堂が開催されていたが、現在は情勢を考慮し、フードパントリーでは高齢者等の地域の方全体を対象とした食の支援、子ども食堂では子どもやその親を対象とした食の支援と居場所づくりを目的として開催している。

次に、子ども食堂である東山ぐうぐう食堂が開催されるまでの流れについてまとめる。

子ども食堂の活動を始めるより前に、2017年1月から子どもの居場所事業として「居場所いま・ここ」の活動が東山市営住宅中央集会所で月に2回開催されていた。この居場所いま・ここの活動としては子どもが好きな時間に来て、好きなことをして過ごす取り組みであり、特に強制して何かさせるということはない。まず、この居場所いま・ここの活動の始まりは、鞍ヶ池公園で開催されているプレパークの存在が関係している。プレパークとは、子どもが主役の、禁止事項をなくした遊び場の事を指す。そして“自分の責任で自由に遊ぶ”事をモットーに掲げており、鞍ヶ池公園ではこの活動が月に4回、第三、第四土曜日と日曜日に開催されている。プレパークでは、子どもが自由に遊ぶからこそ、連れてくる親も自由にできるという良さがある。しかし、鞍ヶ池公園には子ども達だけで行く事はできず、親が遊びに連れて行く必要があり、それにより参加できる子が限定されるという課題があった。そこで、小黑さんが東山地区で、子ども達が自分達でこれる場所にプレパークをつくりたいと思い、居場所いま・ここの活動が始まったのだ。

初めは学校を借りて開催していたが、学校ということでどうしても多少の禁止事項ができてしまうという課題があり、自治区長の越本さんに相談し、現在の開催場所である東山市営住宅中央集会所で開催することができるようになった。

そして子ども食堂である東山ぐうぐう食堂の活動に繋は、小黑さんが東山小学校のPTAの会長をしていた際に、東山地区には多くの子どもがいることを改めて実感した事や、区長の越本さんが東山地区には一人親世帯や、一人っ子世帯が多く、家で一人きりでご飯を食べている子が多いという話を聞いた事をきっかけに開催されることとなった。

以下にこれまでの東山ぐうぐう食堂の活動記録を掲載する。+

東山ぐうぐう食堂の今までの活動履歴

開催時間:子ども食堂 17:00～19:00, フードパントリー 16:00～17:00 (月により変動あり)

| 日付                 | 形態                                     | 人数<br>(子ども) | 人数<br>(大人) | メニュー   | 参加費                       | その他  |
|--------------------|--|-------------|------------|--|---------------------------|--|
| 2019年<br>10月14日(月) | 子ども食堂                                  | 31          | 33         | カレーライス   | 子ども<br>100円<br>大人<br>300円 |  |
| 2019年<br>11月4日(月)  | 子ども食堂                                  | 28          | 26         | ご飯<br>豚汁<br>野菜のナムル<br>ふかし芋                                   | 子ども<br>100円<br>大人<br>300円 |  |
| 2019年<br>12月16日(月) | 子ども食堂                                  | 26          | 33         | さつまいもごはん<br>鶏野菜汁<br>ガーリックポテト<br>ゆでたまご<br>デザート(柿、<br>りんご、ケーキ) | 子ども<br>100円<br>大人<br>300円 |  |
| 2020年<br>1月13日(月)  | 子ども食堂                                  | 33          | 26         | カレーライス<br>白菜と大根の浅漬け<br>みかん<br>もちおかき                          | 子ども<br>100円<br>大人<br>300円 |  |
| 2020年<br>2月24日(月)  | 子ども食堂                                  | 36          | 27         | コンソメスープ<br>もやしとじゃこの<br>ポン酢和え<br>鶏肉と里芋の煮物                     | 子ども<br>100円<br>大人<br>300円 |  |
| 2020年<br>3月16日(月)  | 中止                                     |             |            |  |                           | 新型コロナウイルス<br>により中止   |
| 2020年<br>4月27日(月)  | フードパン<br>トリー                           | 75          | 25         | お菓子<br>菓子パン<br>ジュース 等  |                           |  |
| 2020年<br>5月3日(日)   | フードパン<br>トリー                           |             |            |  |                           |  |
| 2020年<br>5月17日(日)  | フードパン<br>トリー(持ち<br>帰り)と、<br>キッチン<br>カー | 42          | 44         | キッチンカー<br>パスタ 昼夜合わ<br>せて 100食<br>パントリー<br>パン 200個            |                           | ランチタイム<br>11:00～<br>ディナータイム<br>16:00～  |
| 2020年<br>6月7日(日)   | フードパン<br>トリー                           | 47          | 53         | たまねぎ<br>きしめん<br>ゼリー<br>ポカリスエット<br>味噌<br>お菓子 等                |                           | 受付で「最近あった<br>こと」をテーマに一<br>言コメントを書いて<br>もらった。<br>(学校が始まったよ、<br>友達に会えたよ、子<br>ども達が園へ言った<br>よ 等) |

| 日付                 | 形態                             | 人数<br>(子ども) | 人数<br>(大人) | メニュー  | 参加費                            | その他  |
|--------------------|--------------------------------|-------------|------------|---|--------------------------------|--|
| 2020年<br>6月21日(日)  | フードパン<br>トリー                   | 30          | 51         | たまねぎ<br>にんじん<br>じゃがいも<br>大根<br>カップラーメン<br>小麦粉 等                     |                                |  |
| 2020年<br>7月5日(日)   | フードパン<br>トリー                   | 31          | 61         | お米 5kg 100袋<br>(生活支援米 山形<br>県産 はえぬぎ)                                |                                | ボランティア参加<br>再開   |
| 2020年<br>7月20日(月)  | 子ども食堂<br>(お弁当)<br>フードパン<br>トリー | 13          | 29         | お弁当 50食<br>(ほがらかさんに<br>注文)<br>クワガタ 10匹ほ<br>ど(地域の方が<br>持ってきてくれ<br>た) | どなたも<br>200円                   | 突然の大雨、雷雨に<br>より屋根の人に人が<br>密集する事に。<br>会場で食事が出来る<br>ようにしていたもの<br>の、持ち帰りがほと<br>んど。(室内で食べ<br>てくれた人12人)<br>お弁当は15分ほど<br>で完売 |
| 2020年<br>8月17日(月)  | お弁当(子<br>ども限定)                 | 18          | 9          | お弁当 50食   | 子ども<br>(1~19歳)<br>100円<br>一人一個 | 50食限定だったが、<br>1/3程お弁当が余った。<br>告知不足や日中の暑<br>さ等が原因として考<br>えられる。  |
| 2020年<br>9月6日(日)   | フードパン<br>トリー<br>ミニ夏祭り          | 42          | 72         |   |                                | ミニ夏祭り<br>わなげ、千本くじ、ぶ<br>よぶよボールすくい   |
| 2020年<br>9月21日(日)  | お弁当(子<br>ども限定)                 | 19          | 3          |   |                                |  |
| 2020年<br>10月4日(日)  | フードパン<br>トリー                   | 40          | 74         |   |                                |  |
| 2020年<br>10月19日(月) | 子ども食堂<br>(お弁当)                 | 20          | 38         | お弁当 50食   | どなたでも                          | 活動1周年記念  |
| 2020年<br>11月1日(日)  | フードパン<br>トリー                   |             |            |   |                                |  |
| 2020年<br>11月16日(月) | 子ども食堂                          | 24          | 5          |   |                                |  |
| 2020年<br>12月6日(日)  | フードパン<br>トリー                   | 43          | 75         |   |                                | 地域の方が畑でとれ<br>た小カブ、タオルを<br>寄付してくれた。   |
| 2020年<br>12月21日(月) | 子ども食堂                          | 26          | 7          |   |                                |  |
| 2021年<br>1月10日(日)  | フードパン<br>トリー                   | 33          | 56         |   |                                |  |
| 2021年<br>1月25日(月)  | 子ども食堂                          | 33          | 6          | おにぎり  | 無料                             | 炊きたてのごはんを<br>ビニール袋に入れ、<br>子ども達自身に握っ<br>てもらった   |
| 2021年<br>2月7日(日)   | フードパン<br>トリー                   | 41          | 60         |   |                                |  |
| 2021年<br>2月22日(月)  | 子ども食堂                          | 30          | 5          | おにぎり  | 無料                             |  |
| 2021年<br>3月7日(日)   | フードパン<br>トリー<br>お弁当            | 36          | 70         |   |                                |  |

| 日付                   | 形態           | 人数<br>(子ども) | 人数<br>(大人) | メニュー   | 参加費 | その他  |
|----------------------|--------------|-------------|------------|--|-----|--|
| 2021年<br>3月22日(月)    | 子ども食堂        | 41          | 5          | おにぎり   | 無料  |  |
| 2021年<br>4月11日(日)    | フードパン<br>トリー | 18          | 58         |  |     |  |
| 2021年<br>4月26日(月)    | 子ども食堂        | 41          | 4          | おにぎり   | 無料  |  |
| 2021年<br>5月9日(日)     | フードパン<br>トリー | 41          | 68         |  |     |  |
| 2021年<br>5月24日(月)    | 子ども食堂        | 34          | 5          | おにぎり   | 無料  |  |
| 2021年<br>6月6日(日)     | おすそわけ会       | 41          | 80         |  |     |  |
| 2021年<br>6月21日(月)    | 子ども食堂        | 53          | 6          | カレーライス   | 無料  |  |
| 2021年<br>7月4日(日)     | フードパン<br>トリー | 32          | 56         |  |     |  |
| 2021年<br>7月26日(月)    | 子ども食堂        | 28          | 2          | 夏野菜カレーライ<br>ス                                    | 無料  |  |
| 2021年<br>8月8日(日)     | フードパン<br>トリー | 30          | 40         |  |     | 自治区の夏祭りでフー<br>ドパントリー開催<br>整理券での案内実施            |
| 2021年<br>8月23日(月)    | 子ども食堂        | 34          | 5          | 餃子の王将弁当(50食)<br>餃子<br>チーズオムレツ<br>抹茶ふりかけ<br>抹茶プリン | 無料  | 餃子の王将より子ど<br>も食堂へ無償提供<br>で、餃子の王将弁当             |
| 2021年<br>9月5日<br>(日) | フードパン<br>トリー | 38          | 67         |  |     |  |
| 2021年<br>9月20日(月)    | 子ども食堂        | 29          | 4          | 保存食イワシの甘<br>露煮炊き込みご飯<br>冬瓜・野菜たっぷり汁<br>お月見団子      | 無料  |  |
| 2021年<br>10月3日(日)    | フードパン<br>トリー | 66          | 63         |  |     |  |
| 2021年<br>10月18日(月)   | 子ども食堂        | 41          | 4          | 白米・唐揚げ・メ<br>ンチカツ・カボ<br>チャの甘酢焼・柿<br>どら焼き・お菓子      | 無料  | 学校給食でフライの<br>寄付と、フードパン<br>ク愛知さんから鶏肉<br>の寄付を頂いた |
| 2021年<br>11月7日(日)    | フードパン<br>トリー | 62          | 55         | 大根・レタス・キャ<br>ベツ・カボチャ・柿<br>カボチャサラダ・<br>チョコ・豆乳 等   |     |  |
| 2021年<br>11月22日(月)   | 子ども食堂        | 25          | 4          | カレーライス・ポ<br>テトサラダ・さつ<br>まいもの甘煮・み<br>かん・クッキー      | 無料  |  |

上記の東山ぐうぐう食堂の活動をコロナ禍前、コロナ禍のフードパントリー、コロナ禍の子ども食堂の3つに分類し、それぞれの特徴を分析する。

第一に、コロナ禍前は、参加人数は合計60人前後で、子どもと大人の参加人数に差はあまり見られなかった。これは、子どもの付き添いで来る親だけでなく、地域の高齢者の参加も多く見られたからだと考える。そしてメニューの品数はだいたい4品であった。ご飯と汁

物があり、それに寄付で頂いた食品を組み合わせた料理が約2品加えられていた。コロナ禍前の活動の参加費は大人300円・子ども100円であった。

第二に、コロナ禍のフードパントリーであり、参加人数の合計は多少の変化はあるがだいたい100人ほどである。子どもと大人の差をみると大人の参加が多い。しかし、コロナ禍の子ども食堂に参加する子どもの数と、フードパントリーに参加する子どもの数に差は少ない。このことから子どもは、フードパントリー・子ども食堂と両方に参加している子が多いと考えられる。そして子どもに加えて高齢者や、普段子ども食堂にはついてはこない親がフードパントリーには一緒に参加していることで参加人数が多くなっていると考察する。

フードパントリーで配布される食品はその時によって変化するが、野菜・カップ麺・お菓子・冷凍食品・非常食・お米が多く見られる。食品はいつも机の中から好きな物を数個選択してもらう方法で配布を行なっている。数は配布する食品の全体の数を見てスタッフで決めており、だいたい2～3個である。選択式にすると人気な食品がわかりやすく、レンジで温めればすぐ食べられる食品や、温めがいらぬ食品が特に人気ですぐになくなる。また子どもや高齢者がよく選んでいることから、簡単に食べられる食品の需要が高い事がわかる。実際に選ぶときにこれはそのまま食べられるのかと聞かれることもある。フードパントリーでは参加費はもらっていない。

第三に、コロナ禍の子ども食堂である。参加人数の合計は約30人である。コロナ禍では子ども食堂を居場所づくりの延長で行なっているため、参加者は子どもが多く、大人は子どもと一緒に来る親のみである。そのため、子どもと大人の人数差は大きい。また、子どもだけの人数は月で比較してもあまり変動していない事から、毎月参加してくれている子が多いということが考えられる。お弁当配布の子ども食堂の人数が少ない理由としては、お弁当のため数が決まっていたことと、コロナ禍ということで大きく告知できなかったからだ。子ども食堂再開後の数ヶ月はおにぎりをメインにしていた。おにぎりは、ビニール袋に入れ、子ども達自身ににぎってもらう方法をとることで新型コロナウイルス感染対策を行なう事ができた。2021年6月からは調理も再開し、コロナ禍前の子ども食堂の形に戻りつつある。マスクの着用や、食事の際のしきり等の対策は行ないながら、子ども達は食事まで自由に遊んで過ごしている。子ども達による調理のお手伝いも再開した。また、コロナ禍での子ども食堂では参加費をもらっていない。それは東山ぐうぐう食堂の活動が多くの人に知ってもらうことができ、協力してくれる企業等が増えたからだと考え。寄付が増えた事で、自分達で買いきることが減り、無料でも提供することができている。

以上のように、東山ぐうぐう食堂の参加記録とインタビュー記録を通して、東山ぐうぐう食堂はその時々での感染状況などに合わせて活動を変化させているということが明かとなった。そして、活動に参加する中で、変化を加えるためにはスタッフや参加者の協力が必要であり、重要であると考え。フードパントリーを行なうには、食品を陳列する作業や、密集を避けるために受付で規制を行なう必要があり、そのためにはスタッフの協力が必要である。他にもコロナ禍で子ども食堂をするにはマスクの着用や、食事時の会話を控えると言った感染対策が必要不可欠であり、それはスタッフだけでなく参加者の子ども達にも協力してもらう必要がある。

ここで少し立ち留まって考えてみたい。『コミュニティの力“遠慮がちな”ソーシャル・キャピタルの発見』の著者たちは、「いいコミュニティ」を作るには、使命感を持って人をひっぱっていく強いリーダーも必要だが、活動を多くの人に広げ、継続させるためには“遠慮がちな”



小さな協力も必要だと述べている。筆者は、東山ぐうぐう食堂の活動に参加し、そうした小さな協力が多いいコミュニティだと感じた。東山ぐうぐう食堂が「いいコミュニティ」だと考えるのは、それが「いいコミュニティ」を作ることを向けて有効な「7つのツール」を備えているからである。以下では、その「7つのツール」に照らして分析してみたい。7つのツールとは、

1. コミュニケーションをよくする
2. きっかけをつくる / 誘う / 巻き込む
3. 一緒に汗をかく
4. 自分から動く
5. 成果の可視化 / 共有
6. 論理で正面突破する
7. 実践を促進するためのルールを作る

である。これらのツールを、東山ぐうぐう食堂と自治区の関わり、東山ぐうぐう食堂のスタッフ同士の関わりや、スタッフと参加者の関わり等の様々な関わりに当てはめていく。

### 1. コミュニケーションをよくする。

自治区との関わりでは、福井さんが月に1度は必ず子ども食堂やフードパントリーの活動報告を区長の越本さんに伝えに、東山区民会館へと足を運び定期的な報告と交流を行なっている。

スタッフ同士の関わりでは、準備、調理、片付け等で、各々会話を通してコミュニケーションをとっている。調理の際には主婦であるスタッフ中心となり案を出し合い、臨機応変に対応している姿が見られた。

スタッフと参加者の関わりとしては、調理の手伝いをしてくれる子どもとはキッチンで作業を通してコミュニケーションを取り、ホールで遊んでいる子どもはホールを担当している学生等と一緒に遊ぶなかでコミュニケーションをとっている。

### 2. きっかけを作る / 誘う / 巻き込む

子ども食堂を知るきっかけ作りとして、回覧板でチラシを回す事、開催日には町内放送をかけるという事やFacebookやインスタグラム等のSNSを活用して活動について発信する事を行なっている。実際に町内放送を聞き興味を持った方がおり、子どもが小学生となったタイミングで参加してくれるようになった。また元々福井さんの知り合いだった方だが、Facebookで子ども食堂の活動を知り、参加してくれるようになった事もある。

また、受取手としてフードパントリーに常に1番に整理券を受け取りに来る（以前は1番に並ばれる）お母さんに、準備等の手伝いを行ったら開始前に好きな食品を選んで良いと声をかけた所、スタッフとしてフードパントリーや子ども食堂の手伝いをしてくれるようになった。見学で来る人にも実際に子どもと接する事や調理の手伝いをしてもらう等、活動の中に入れてもらうこと（巻き込む事）を行なっている。

### 3. 一緒に汗をかく

自治区との関わりでは、東山ぐうぐう食堂に参加する子ども達が自治区と共に、自治区の畑での苗の植え付けから収穫までを行なっている。子ども食堂の活動内では、スタッフが子

どもとおにごっこで、一緒に走り回る等、子どもと同じ目線で、全力で遊びを行っている。

また、調理の手伝いに参加してくれる子には、野菜を切る作業や食器を運ぶ作業等の手伝いをしてもらい活動の一員となってもらっている。新たにスタッフと参加する人には、積極的に初めから作業の手伝いを行なってもらう。見て知ってもらうというよりも実際に中に入り、体感してもらう事を重視している。

#### 4. 自分から動く

代表である福井さんの立場から考察すると、自治区との関わりでは、月に1度区長の越本さんに、活動状況や参加人数、次回の開催日等を伝えに行っている。協力を得るために、そうした報告や関わりを大切にし、行動していると考ええる。

スタッフとの関わりでは、代表者として運営の確認や、見学者・訪問者の対応等しなければならぬ事が多い中で、調理スタッフにただ指示を出すだけではなく、実際に調理に携わり、進行状況の確認を行なう等常に全体を気にかけて行動を行なっている印象を受ける。それにより周りのスタッフも安心して調理等の作業を進めることができていると考ええる。

#### 5. 成果の可視化 / 共有

自治区には、上記にあるように月に1度報告に行き、参加人数や様子等を伝えている。スタッフ同士の関わりでは、LINEにスタッフ・ボランティアのグループがあり、そのグループを通して福井さんが当日の活動の報告や次回の開催の案内を行なっている。LINEのグループには現在約30人が参加している。実際に子ども食堂やフードパントリーを開催する際に集まるスタッフは10人程度であり、未だLINEのグループには所属しているが、活動に参加したことがない人も数名みえる。この現状について福井さんは、グループを抜けずに、入り続けていると言うことはなにかしら興味を持ってきているからだと考えている。日程が合う等きっかけがあれば参加してくれるかもしれないため、その際に参加しやすいよう、LINEのグループで活動の報告を行なっているという。実際に筆者も活動に参加できていない期間があったが、その期間にもLINEのグループで活動報告や写真が送られていたため、雰囲気や変化を知ることができ、数ヶ月ぶりに活動に参加する際も戸惑いが少なかったように考える。

#### 6. 実践を促進するためのルールを作る

東山ぐうぐう食堂の活動の中でルールとして第一にあるのは何事も「強制しない」と言うことである。各自ができる範囲で参加する事をルールとしている。よって子ども食堂では、開始時のスタッフと終了時のスタッフの顔ぶれが変わっている事や、人数が変化していることはよくある。このできる範囲で行うという雰囲気が、参加しやすい環境を作り出していると考ええる。実際、少しの時間でも参加してくれるスタッフがいることで運営できているため、参加しやすい環境を作り、少しでも参加しようと思ってもらうということは重要だと考える。

また、子どもの遊び等で「禁止をしない」ということもスタッフの中で気をつけている。命に関わるような危険な事でない限り、基本的に子ども達にまかせるというルールだ。よって何か伝えるときには「だめ」等の禁止の言葉を使うのではなく、問いかけるように声をかける事を心がけている。そうする事で子ども達は自身でどうするか考え、行動を起こすことが出来る。自分自身で考える機会を与えているのだ。

例として、1人の子がお菓子をいっぱいもらっていきこうとしている場面があったとする。その際にスタッフは「みんなに渡らなくなるから、1人で持って行ったらだめだよ」と禁止の言葉で止めるのではなく、「後から他の子が来るかも知れないね。そうしたら足りなくなっちゃうかもしれない。どうしよう。」といったように声のかけ方を工夫し、どうするかの手動を子どもに委ねるとのことだ。

最近では新たに、自分が食事で使った食器は自分で洗ってもらうというルールを追加した。始めたきっかけは、福井さんが見学に行った子ども食堂で実際に行なわれているのを目にしたからだという。その子ども食堂では、自分で洗うことで活動の手伝いをしているという事を子ども達に感じてもらう事ができるということで実施している。子どもの中にはキッチンに入らず帰る子もいるが、自分で洗うようにすることでキッチンに入り、その場所で調理がされていると感じる事ができる。そしてただ遊び、食事をして帰るのではなく自分で洗うことで活動を手伝い、一員となっていると思ってもらえる事もできる。それにより参加しやすい環境を、参加者にも作ることができる。

なかには洗い残しもあるが、数人食器を拭くと共に、洗い残しを確認するスタッフをつくり対応している。筆者はよくその場を担当するのだが、洗い物の時間を通して短い時間ではあるが、多くの子どもとコミュニケーションをとる機会にもなっていると考える。今まで調理の手伝いを担当することが多いことから、長くコミュニケーションをとる相手はスタッフや一部の子どもたちであった。しかし洗い物を各自ですってもらうようになった事で以前は話す機会が無かった子どもに関わる機会ができたため、1のコミュニケーションをとるにもこのルールは関係している。

東山ぐうぐう食堂の活動はこの「七つのツール」に当てはまる部分が多く、東山ぐうぐう食堂は「コミュニティの力“遠慮がちな”ソーシャル・キャピタルの発見」で記載される「いいコミュニティ」であるといえる。

## 第六章 地域とのつながりは大事である

東山ぐうぐう食堂に参加してきて、東山ぐうぐう食堂が「いいコミュニティ」といえる要因には上記の「七つのツール」だけでなく、自治区とのつながりも大きく関係していると考えられる。コミュニティとして存在し続けるためには、活動の継続が重要であり、東山ぐうぐう食堂の活動継続にはやはり自治区が大きく関わっている。コロナ禍でも活動継続を前向きに検討していた点や、活動に使う調理器具や、寄付で頂く食品を集会所に置くことを許可した点等をふまえ、東山自治区であるからコロナ禍でも活動ができていると言っても過言ではないだろう。そして自治区長が越本さんであるという点も重要である。以前自治区長が変わった際に、活動についての説明を多く求められた事や、調理器具等を置くことの許可を得られなかった事があったようだが、区長が越本さんになり活動への協力が増えたそうだ。それは自治区長である越本さんが若者のやりたいことを後押ししてくれる人物であり、また、特に地域の子どもの事を気にかけてくれる方だからであると福井さんはインタビューで述べていた。コロナ禍で子ども会が活動出来ていない中で、子ども食堂や居場所づくりいま・ここで子ども達が過ごせる場所や、活動できる場所があることを本当に喜んでくれている。だからこそ様々な面で協力をしてくれているようだ。

また、自治区の他にも東山ぐうぐう食堂のスタッフとして活動に参加している人達の存在

も「いいコミュニティ」の重要な要因である。東山ぐうぐう食堂では上記にあるように何事も「強制しない」というルールがある。よってスタッフは参加できる時間に、無理のない程度で活動に参加する。調理のみの手伝いに来てくれる人や、片付けのみ来てくれる人等様々な参加の仕方があることで、人手が不足する日や時間はあるものの、活動が支えられている。

「コミュニティの力“遠慮がちな”ソーシャル・キャピタルの発見」にも世の中は積極的に自発性に溢れた人ばかりではなく、積極性があり、明確な目標を描いて実行に移すイニシエータ（新しいことを始める人）は必要だが、その「イニシエータ」についていく人もコミュニティには重要であるとされている。東山ぐうぐう食堂にはイニシエータ（主となり子ども食堂を運営するスタッフ）だけでなく、その活動に賛同し、活動を支えてくれる人も多いため、その点でもやはりいいコミュニティといえるだろう。多くの子ども食堂の活動には地域とのつながりが重要であるが、その中でも特に東山ぐうぐう食堂は、地域のつながりや協力が活動に必要な不可欠と言えるだろう。

また、今回の調査で、地域とのつながりの重要性は明らかとなったが、市役所や社協、企業等のその他のつながりの重要性を明らかにすることができなかった。しかしインタビュー調査でも名前が上がることも多く、子ども食堂の活動に必要なつながりは地域だけではないと考えている。2020年10月に福井さんと小黑さんに行なったインタビュー調査では子ども食堂初回開催前に豊田市役所が情報交換会として美里地区の子どもの状況について話す機会を設けていたことが明らかとなった。その場には民生委員や小学校中学校の教頭先生やPTAの役員等も集まっており、その場があったことでより多くの人に参加してくれたと福井さんや小黑さんは考えている。また他にも豊田市役所から活動を支援したいという企業の紹介等様々なサポートがあり、活動が支えられている。このように地域以外のつながりも子ども食堂の活動には重要だと考えるため、その点についても明らかにしていきたい。

## 参考文献

- 今村晴彦・園田紫乃・金子郁容，2010，『コミュニティのちから“遠慮がちな”ソーシャル・キャピタルの発見』，慶応義塾大学出版会
- 岩垣穂大・長瀬健吾・扇原敦，2020，「子ども食堂の役割および継続的な運営に関する研究」，日本の地域福祉，33巻，p. 25-34
- 区誌編纂委員会，1996，下野見自治区誌
- 新修豊田市編さん専門委員会，2019，『新修豊田市史 資料編 現代Ⅱ』
- 寺床幸雄 梶田真，2016，「地方都市の現在とこれから—水俣市から考える—」地学雑誌 125(4) 607-626
- 丹辺宣彦・中村麻里・山口博史編著，2020，『変貌する豊田—グローバル化と社会の変化に直面するクルマのまち—』，東信堂
- 特定非営利活動法人，日本冒険遊び場づくり協会 鞍ヶ池プレーパーク，最終閲覧日2021年12月23日，(<https://bouken-asobiba.org/play/asobiba-315.html>)
- 豊田市 ホームページ 豊田市の人口2021年4月1日現在人口詳細データ E-5 地区別人口の推移（月別）令和3年，最終閲覧日2022年1月4日
- 深川光耀，2020，「個人の問題意識を動機とするアクターの 地域課題解決の担い手としての可能性 —京都市 A 学区における S 食堂の取り組みの考察から—」，立命館産業社会論

集 56(3)

NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ, 最終閲覧日: 2022 年 1 月 2 日, (<https://musubie.org/news/4524/>), (<https://musubie.org/kodomosyokudo/>)

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、インタビューや資料提供などご協力いただきました東山ぐうぐう食堂の関係者、東山自治区の関係者には深く御礼申し上げます。また、2021 年 6 月 9 日、中京大学成ゼミナールの社会調査実習において、教員・学生が行った東山ぐうぐう食堂の福井香代さんへのインタビュー調査を文章記録として起こし、筆者の卒業論文の資料として提供してくださった成ゼミナールの皆さん、特に、北村初音さんに心から感謝申し上げます。